

# 1年生 司書アーカイブズコース対象（アーカイブズ概論）

## ティーチングポートフォリオ

佐賀女子短期大学 地域みらい学科 久保知里

### 1. 教育の責任

司書アーカイブズコースでは、司書資格取得のみならず、図書館学隣接分野である「アーカイブズ」に関する基礎知識等を身につけることを掲げて教育実践をしている。

近年、「桜を見る会」や「モリカケ問題」等、文書への信頼性が問われる状況もあり「アーカイブズ」へ注目が集まっている。また世界では「キュレーター(学芸員)」「ライブラリアン(司書)」「アーキビスト」という資料を取り扱う専門職が存在するが、日本ではアーキビストという国家資格は存在しない。しかし、文書や記録資料の管理・活用していくためには専門家の育成が不可欠である。日本でも2021年からようやく独立行政法人国立公文書館が認定する「認証アーキビスト」制度がスタートした。しかし、依然としてアーカイブズに関する「モノ」等は図書館や博物館でも管理・活用する実態がある。そこで司書アーカイブズ分野では、図書館でも取り扱うことのある「アーカイブズ」資料に関する知識や取扱いの基礎を学ぶ科目を設置している。

この科目は「司書分野科目」のなかで「基礎／アーカイブズ」分野の科目に位置づけられ、学習成果として「司書としての技能の獲得」を目指すものである。

### 2. 教育の実施における理念

司書アーカイブズコースでは、司書としての専門的な知識・技能の獲得を目指す。さらにアーカイブズの基礎知識を身につけることを目標としている。本科目を履修学生の多くが司書資格取得を目指しており、稀に歴史や史料に興味関心を持つ学生が履修している。よってアーカイブズの基礎とともに歴史や図書館学の一部をリンクするような授業構成としている。

本科目は将来にわたり残していくべき資料(文書類や記録類)について広く学ぶこと、アーカイブズ(記録資料学を含む)の基礎知識や取扱いについて、その社会での必要性や諸問題を含めながら、さらに図書館の隣接分野として、連携できることなどを学ぶことを掲げる。

学生には、アーカイブズの基礎知識を理解でき、事例を挙げて説明することができるような能力を身につけさせたい。また表現する文章能力も併せて修得させたい。

上記を踏まえ、本科目ではアーカイブズの基礎知識の講義と実際にアーカイブズを扱う文書館の存在を理解することが必要となる。

### 3. 教育の方法

展開時期は1年次後期であり、履修学生の多くは司書資格取得のため、前期には「図書館概論」や「生涯学習概論」を履修している。よって、図書館でのアーカイブズ取扱いに関すること、隣接分野の博物館も含めての記録資料の内容を学べるようにし、広い視野を身につけることができるように配慮している。と田江波、「メディア(記録媒体)の変遷」などの歴史は、「図書館情報資源」や「メディア」といった分野も含み、総合的に理解ができるようにしている。

基礎的な知識を講義で実施した後、アーカイブズである「佐賀県公文書館」へ見学を行う。公文書館では施設見学と職員からの仕事紹介、展示の見学等がある。また、本学図書館では取り扱っていないマイクロリーダーなども使い、経験を得るようにしている。

講義と見学(体験)を行うことで、知識の定着を企図し、さらに疑問等を持つような声かけを心がけている。

### 4. 教育の成果

成績や授業アンケート結果などは以下の通りである。(ただし、アンケート回答率は80%)

\*成績

平均 71.0 点

\*到達度評価

1:0名 2:0名 3:2名 4:7名 5:3名 平均 4.08点

\*学生の満足度(授業アンケートの評価結果)

「実際に公文書館に行き、展示室や資料が保管されて

いる場所へ行き」理解が深まった、「実際に紙の保存方法を考えて作ってみたり、体験しながら学ぶことが出来たのでわかりやすかった」という個別意見もあり、現場を見て、職員さんからお話を聞くことや「史料」という実際のモノを見たり、触ったりすることが学びに繋がっていることがうかがえる。授業の内容や展開、構成の工夫等へもネガティブ評価はなく、概ねスムーズに授業を行えているようである。

評価については、課題提出(20%)、試験(60%)、意欲態度(20%)とし、定期試験では「アーカイブズ」について基本的なことを理解しているかを、課題では求められたことを適切に処理できているかを、意欲態度は受講態度や発言内容等を評価基準とした。

定期試験の指標は、①基礎的な知識の正確な理解、②自身の考えを交えて表現することに置き、多くの学生がクリアした。ただし②については、なかなか自分ごととして考えることまでが難しい学生もいた。

また、ピアレビューとして、「学生の反応を見て授業を進めている」との意見をいただいた。

## 5. 目標

授業の課題としては、「アーカイブズ」という学生は聞き慣れない、さらにはっきりと図書館資料や博物館資料とは区別をしにくい記録資料について理解することの難しさである。「認証アーキビスト」資格も大学院卒や実務経験者でないと取得できない。アーカイブズ学は日本の高等教育機関で専門的に学べる教育機関も少ない。そのような分野であることも影響し、学びの内容を厳選する一方、学際的に見る視野を育成する必要もある。本科目のみではアーカイブズ学を修めることが不可能であるため、後続科目「アーカイブズ研究」まで併せて基礎知識の習得を目指したい。

また、さらに1年後期開講する「図書館情報資源概論」とも類似する内容がある。その内容に明確に差をつける部分と類似性を持たせる部分のメリハリと、学生の理解に合わせた進行を心がけたい。